

# 平成30年度兵庫県立氷上特別支援学校 学校評価 報告書

## 1 教育方針

こころ豊かにたくましく生きる力を育み、将来、社会の一員として、学習を続け、生活できる人間を育成するため、一人一人の児童生徒の能力を伸ばす教育を行う。

## 2 重点目標

- 1 児童生徒一人一人の実態を的確に把握し、教育的ニーズに応じて自主性・主体性・社会性を育む教育を推進するとともに適切な指導および支援を行う。
- 2 安全・安心な学校、明るく元気な学校づくりを進める。
- 3 信頼される学校づくりを進めるため、全職員の専門性、資質向上を図る。
- 4 地域・保護者とともに開かれた学校、特色ある学校づくりを進める。
- 5 地域との連携をもとに、特別支援教育に関する地域のセンター的機能を充実させる。
- 6 全教職員の連携に基づく学校組織の活性化を進める。

## 3 学校自己評価

各部の掲げた取組計画について、その目標達成度を全教員が4段階で評価し、その平均値によりA～Dの4段階で判定した。

評価	4: 目標は十分達成されている	3: 目標はおおむね達成されている
	2: 目標は、おおむね達成できていない	1: 目標は、まったく達成できていない
判定	A: 良好(評価平均 3.5以上)	B: 概ね良好だが一層の取り組みが必要(評価平均3.0以上)
	C: 取組に工夫が必要(評価平均2.0以上)	D: 取組の見直しが必要(評価平均2.0未満)

### 総務部

重点目標	取組計画	今年度の取組	評価基準・判断指標	教員評価(1月)					判定
				4	3	2	1	平均	
2	各学部防災教育の事前指導をまとめることにより、減災への対応を共通理解する一助にする。	6月に火災避難訓練と9月に地震対応避難訓練を実施した。それぞれの避難訓練前に事前指導に関する教材や指導場面の記録を依頼した。その結果、少しずつではあるが、各学部・学年での事前指導の様子が集まっている。これらを年度内にまとめて共通理解につなげることで来年度に生かしていきたい。さらに、今年度は新たにシェイクアウト訓練を実施する予定であり、防災・減災への意識を高めていきたい。	①各学部で防災教育の事前指導ができたか。 ②減災への対応を共通理解できる資料をまとめられたか。	21	38	2	0	3.3	B
4	今年度は創立40周年を迎えたため、次年度の記念式典の準備を検討する。	11月の校務運営委員会にて大まかなガイドラインと役割分担を提案し、12月には各部での仕事内容の確認をするまでに至った。各部で詳細な仕事内容を検討するには時間はかかると思われるが、年度内には明確な内容を提示し、次年度へ引き継げるようにしたい。	①教頭とともにどのような形にするかの職員の意識を確認できたか。 ②年内に実施期日を決定できたか。 ③年度内に大まかな流れや内容を定めることができたか。	23	36	2	0	3.3	B

### 【 次年度に向けての課題・展望 】

・11月に行うことが決定した「創立40周年記念式典」実施に向け、総務としての仕事として、来賓(一般来賓、同窓会、旧職員)決定や案内状発送、式次第、式典関係日程の調整及び式典進行計画作成を行い、式典を成功させたい。  
・教職員が自分自身の命を守り、児童生徒の命を守る行動が素早くとれるようにするとともに、児童生徒一人ひとりができる限りの命を守る行動がとれることを目的として、学期に一回程度、地震を想定したシェイクアウト訓練を行い、防災意識を身につける。

教務部

重点 目標	取組計画	今年度の取組	評価基準・判断指標	教員評価(1月)					判定
				4	3	2	1	平均	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「個別の学習指導計画」を通じて指導や支援の方法をクラスや学部等で共有できるように作成を依頼</li> <li>「教科・領域の年間指導計画」を活用し、指導内容やねらいを確認できるように作成と保管を依頼</li> <li>新学習指導要領の周知</li> </ul>	<p>個別の学習指導計画については、各学期末に評価し、児童生徒の学習上の課題や指導内容の見直し等をクラスや教科担当者間で行った。</p> <p>教科・領域の年間指導計画については、5月に作成完成後、計画にもとづいて指導を行い、各学期末にまとめや計画の修正をして次学期に向けて指導内容やねらいの確認を行った。</p> <p>新学習指導要領については、4月に特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領を小中学部の職員に配布した。新学習指導要領解説の総則編と自立活動編の購入希望の取りまとめを行ったり、今回の改訂についての職員研修会をおこなった。</p>	<p>各種計画を作成し、それらをクラスや学部間で確認したり閲覧できるようにしたりすることで、指導内容やねらい、支援の方法等の共通理解に活かすことができたか。新学習指導要領の配布や、研修会やテーマ研等を通じて、新学習指導要領に触れる機会がもてたか。</p>	17	38	5	1	3.2	B
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修の実施(情報教育、人権教育、テーマ研究)</li> <li>校内授業公開期間の継続</li> <li>多様化事業の活用</li> </ul>	<p>情報教育研修会「ICT機器の効果的な活用について」を7月30日に実施。人権教育研修会「多文化共生社会の実現に向けて」を8月22日に「女性の人権について」を1月17日に実施した。テーマ研究は、月ごとに日程を調整。多様化事業は、5名の講師を招聘し、計画にもとづいて実施した。</p>	<p>情報研修会を通じて、ICT機器の効果的な活用の知識や技術を広げる機会となったか。人権研修会を通じて、多文化共生社会と人権について意識を高める機会となったか。多様化事業を活用し外部講師をむかえることで、助言をいただいたり、専門性を高めることができたか。</p>	17	43	0	1	3.3	B
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPによる情報提供</li> </ul>	<p>HPを随時更新し、校内行事や学校通信などの情報を提供した。</p>	<p>HPに掲載依頼があれば速やかに対応し、地域や保護者など外部にHPを通じて情報を提供できていたか。</p>	28	31	1	1	3.4	B
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護等体験、教育実習生の受け入れ</li> </ul>	<p>前期介護等体験(7/2,3)では11名、後期介護等体験(11/15,16)は1名、教育実習(11/15~29)は2名を受け入れ、段取りや手続きを行った。</p>	<p>各実習生の受け入れに必要な手続きや受け入れの段取り、指導等が滞りなく行えたか。</p>	35	26	0	0	3.6	A
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内ネットワークの整備および管理</li> <li>教務関係諸様式の電子化の推進と管理</li> </ul>	<p>システム更新に必要な連絡・依頼・設定を行い、夏季休業中にPCおよび、校内ネットワークの整備を完了した。新PC20台入荷にともない、古いPCとの交換を行った。中学部指導要録の電子化について準備や検討を行い、来年度から実施する。</p>	<p>PCやLAN環境でのトラブルに対応したり、システム更新に必要な作業の連絡・依頼・設定等を行ったりして、校内のネットワークの整備・管理を行えたか。31年度から中学部の指導要録が電子化できるよう準備や検討ができたか。</p>	23	32	6	0	3.3	B

【 次年度に向けての課題・展望 】

- ・指導計画関係、諸帳簿関係の作成が滞りなく行われるように依頼や確認、管理を行いたい。
- ・教師の専門性や資質向上の一助となるよう、継続して校内研修(情報教育、人権教育など)を実施したい。
- ・校内ネットワークの環境を管理・維持したい。
- ・新学習指導要領の周知をすすめたい。

生徒指導部

重点 目標	取組計画	今年度の取組	評価基準・判断指標	教員評価(1月)					判定
				4	3	2	1	平均	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教育の実施。(交通安全教室、通学指導、列車マナー指導)</li> <li>外部講師を招いての生徒向け情報モラル授業の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室を5月10日に実施。実態に応じて2グループに分かれ実技指導を行い、交通安全について理解を深めることができた。</li> <li>登校指導を4月9日、9月3日に実施。1月8日にも実施。登校の様子を観察し交通マナーを指導する機会となった。</li> <li>列車マナー指導は、7月3日、11月21日に実施。</li> <li>生徒向け情報モラル研修会を、6月14日に兵庫県警察本部サイバー犯罪対策課から講師を招いて実施。SNSを活用する注意点などスマホやタブレットの利用方法を知る機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教育を実施し、児童生徒の実態把握を行い、指導に生かすことができたか。</li> <li>情報モラル研修会を実施し、スマホやタブレットの適切な利用方法やマナーを知る機会となったか。</li> </ul>	29	31	1	0	3.5	B
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ等の未然防止のための生活アンケートの実施。(学期に1回)</li> <li>委員会でのアンケート結果の共有。</li> <li>児童生徒会活動の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活アンケートを6月6日、10月23日に実施。1月22日にも実施。</li> <li>生活アンケートの結果を踏まえて、生徒指導委員会を実施し、情報の共有を行った。</li> <li>全校集会やお昼の放送、エコキャップ運動など積極的に活動を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活アンケートを実施し、児童生徒の悩みや考えを知ることができたか。また、指導に生かすことができたか。</li> <li>アンケート結果を共有し、指導に生かすことができたか。</li> <li>児童生徒が協力し合う中で、仲間意識を育てる活動となったか。</li> </ul>	21	34	6	0	3.3	B
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修の実施。(いじめ未然防止研修)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ未然防止研修会を10月24日に実施。いじめの定義や未然防止のための学級づくりなど理解を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修を通して、いじめの考え方や、いじめを防止するための取り組みを知る機会になったか。</li> </ul>	21	36	3	1	3.3	B
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の大会参加及び作品展への出品。</li> <li>運動会・学習発表会の実施と地域・関係機関への案内。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動部では、5月26日にのじぎくスポーツ大会、6月30日に兵庫県サッカー選手権大会に参加。今後3月2日のしらさきカップに参加予定。</li> <li>文化部では、9月15・16日に第11回文化発表・音楽の祭典、11月3日にものづくりはっぴいステージに作品を出展。また、柏原高校との交流において本校、小・中・高等部の生徒の作品を9月14・15に行われた文化祭に出品。</li> <li>運動会・学習発表会では、地域や関係機関の方々に多数、来場して頂き、児童生徒の学習の取り組みを知ってもらえる機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動での大会参加や作品展への出品等を通じて、学校での取り組みを外部に発信することができたか。</li> <li>地域や関係機関の方々を招いて、運動会・学習発表会を実施することで、日頃の取り組みを知ってもらえる機会となったか。</li> </ul>	39	21	1	0	3.6	A

【 次年度に向けての課題・展望 】

- ・スマートフォン・タブレット等インターネット利用に係るとトラブルや犯罪被害防止の為、次年度も学習を重ねていく。
- ・生活アンケート結果の情報共有。
- ・校内研修(いじめ未然防止、ネットトラブル防止など)の実施。

進路指導部

重点 目標	取組計画	今年度の取組	評価基準・判断指標	教員評価(1月)					判定
				4	3	2	1	平均	
1	・卒業後を見据えた指導。高等部3年生にあつては、進路先へのスムーズな引継ぎを行うため、個別の移行支援計画を作成する。	12月中には学年へ下し、作成依頼を行った。	・適切な時期に、個別の移行支援計画を滞りなく各学年へ依頼する。	24	33	1	0	3.4	B
2	・生徒への補償について。実習中を含めた、校外学習に関する賠償保険の検討と、全生徒に対して加入を推し進める。	前期実習において全員加入を促し、今年度から郊外へ出かける実習や花と緑の会等の行事における、器物班損等の保証がカバーできることになった。	・実習前保護者に向け資料配布できたか、加入を行ったか。	30	29	0	0	3.5	A
3	・校内実習の充実。生徒増に伴い、進路指導部のみで運営するのではなく、学部内職員に向け、実習の内容について学ぶ機会を持ちたい。	校内実習では、各工場長制度も学部内教師にも定着し、教師間で進んで取り組むことができた。	・今年度新たに高等部に加入した教師への説明する機会を持つことができたか。	21	38	0	0	3.4	B
4	・校内研修の実施。昨年度は近隣の関係約15団体を招聘し、事業PRを保護者に向けても案内した。今年度も継続するか検討する。	今年度は夏休み期間を利用したキャリアカウンセリングに関する研修内容で、すでに実施済みである。2学期には生徒を主体にした講座を設け、教師の研修は勿論の事、保護者へも声掛けをして理解が深まった。	・長期休暇中などの時間的都合のつきやすい時期に、係内において研修内容が検討できたか。	18	38	3	0	3.3	B
5	・進路指導における啓発活動の推進。本校の実情と進路指導に関して、校外への研修依頼、講演依頼を受ける。	進路だより等を行事ごと不定期に発行し、紙媒体やホームページ等を通じ啓発できた。	・係部会を有効に活用できたか。	23	33	1	0	3.4	B
6	・現場実習、職業における授業内容の検討を継続して行う。また業務改善に関する見直しも適宜行う。	今年度もこれまでの実習における準備、作業内容を再検討し効率よく実施することができた。	・進路指導部長を中心とした係内における体制作りの構築が行えたか。	25	31	2	0	3.4	B

【 次年度に向けての課題・展望 】

今年度の項目を見返し、本校の進路指導が更に、生徒や保護者にとってわかりやすく充実したものとなるよう邁進する。

保健部

重点目標	取組計画	今年度の取組	評価基準・判断指標	教員評価(1月)					判定
				4	3	2	1	平均	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食センターや他校配属の学校栄養教諭と連携した食に関する指導を行う(給食交流など)。</li> <li>全校集会で保健指導(2回)、食育指導(1回)を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部では、エンドウのさやむき体験を行い、給食センター長と学校栄養教諭に指導をしていただいた。給食センターの調理員との給食交流を中学部は1学期に行い、給食センターの様子について話を聞いた。また、学校栄養教諭にバランスよく食べるための授業を受けた。高等部は11月28日に実施し、地産地消について学習した。小学部は2月18日に実施し、給食センターの様子について学習した。</li> <li>保健指導は、6月に熱中症に関することを行った。12月には、風邪(インフルエンザ予防)について行った。食育指導は、10月に旬の食べ物のパワーについて行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食センターや他校配属の学校栄養教諭と連携した食に関する指導や、全校集会での食育指導が食べ物や食べることへの興味関心に繋がったか。</li> <li>保健指導が熱中症や風邪予防の意識付けに繋がったか。</li> </ul>	38	22	1	0	3.6	A
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギーのある生徒に対する共通理解及び、事故を未然に防ぐ対応を考えるアレルギー関係者会を実施する。(不定期)</li> <li>安全点検やヒヤリハット報告をすることで、学校施設設備の保守・点検管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月に、アレルギー除去食対応生徒の共通理解会議を開催した。担当、学年主任、学部長、アレルギー担当教諭、養護教諭、保健部長が参加した。現在、除去食がある日には、掲示物で知らせるとともに、複数で声かけを行い、事故を未然に防ぐことができた。</li> <li>安全点検とヒヤリハットで出てきた事案は、事務室に修繕、点検を依頼し、その都度改善できた。また、職朝を通して周知を図るとともに、学校保健安全委員会で報告を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー除去食対応生徒の共通理解会議を開催し、対応方法の検討を行い、事故を防ぐことができたか。</li> <li>安全点検や、ヒヤリハットから事故の予防ができたか。</li> </ul>	33	27	1	0	3.5	A
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校及び、登校しにくい児童生徒を支援するためのカウンセリングマインド研修を実施する。</li> <li>保健研修会を開催する。</li> <li>各学部と連携したケーススタディを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングマインド研修として神出学園から講師を招聘し、「困っている子どもたちへの対応～不登校の理解と支援」という内容で実施した。不登校についてや神出学園の概要を知る機会となった。</li> <li>保健研修会では、医療福祉センターきずなから常石先生を招いて「発達障害・肢体不自由のある子どもたちの健康安全」について講話いただいた。</li> <li>今年度のケーススタディは、小学部4回、高等部6回実施した。(一部予定を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングマインド研修が不登校及び、登校しにくい児童生徒を支援するための知識を深める機会となったか。</li> <li>保健研修会を開催することで、個別の課題に応じた指導支援に繋がることができたか。</li> <li>児童生徒に応じた緊急事態を想定し、学部及び学年などと連携できたか。</li> </ul>	21	37	3	0	3.3	B
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種健康診断の結果を保護者に伝え、早期の受診を促す。</li> <li>保健だより、食育だよりを月に1回程度配布し、健康安全に関する啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種健康診断の結果は保護者に文書で知らせた。受診勧告を併せて行った。</li> <li>保健だより、食育だよりは計画通り月一回程度の配布を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種健康診断の結果を保護者に伝えることで早期の受診を促し、疾病の予防・治療の指導に繋がったか。</li> <li>保健だより、食育だよりを通して、健康安全に関する啓発を行えたか。</li> </ul>	34	25	2	0	3.5	A
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭、地域と連携した学校保健活動を推進するため、学校保健安全委員会の開催を増やす。(校内1回、拡大2回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月に校内委員会と拡大委員会をそれぞれ1回行った。そこでは、各種健康診断の結果から、健康上に課題のある児童生徒の共通理解を行うことができた。</li> <li>また、学校医からは課題に対する助言をいただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校保健安全委員会を開催することで、児童生徒の健康上の課題を共通に理解し、指導支援に活かされたか。</li> </ul>	27	31	2	0	3.4	B

【 次年度に向けての課題・展望 】

- 今年度同様、食育、性教育、保健に関する学習や各種研修会を充実させていきたい。
- 学校安全については、各学部、分掌と連携し事故を未然に防ぐように努めたい。
- 学校保健安全委員会で出される資料とその記録の活用について今後考えていき、児童生徒の健康の保持増進と、学校安全を図りたい。

教育支援部

重点目標	取組計画	今年度の取組	評価基準・判断指標	教員評価(1月)					判定
				4	3	2	1	平均	
1	・「個別の教育支援計画」や「自立活動の個別の指導計画」を学級担任で読み合わせることで、支援に関する共通理解を図る。	・各種計画の作成手順を随時説明し、全児童生徒について作成した。	・各計画の内容について学級等で共通理解することができたか。	23	32	5	0	3.3	B
3	・校内研修(基礎講座)は希望アンケートをもとに内容の充実を図る。 ・教材展や特別支援教育講演会を実施する。	・基礎講座は、希望アンケートをもとに年間7回計画したが、都合により5回の開催になった。 ・7月25日・26日に教材展を行った。 ・8月23日に特別支援教育講演会を実施した。(講師は東京都立港特別支援学校の佐藤比呂二先生)	・基礎講座の内容は適切であったか。 ・各研修(基礎講座、教材展、講演会)は専門性向上につながっているか。	26	31	4	0	3.4	B
4	・教材展や特別支援教育講演会を地域の小中学校等に公開する。	・上記の教材展および特別支援教育講演会を公開した。教材展には40名、講演会には70名ほど、地域の小中学校等からの参加があった。 ・特別支援教育講演会については、本校PTAの協賛により開催することができた。	・教材展や講演会に地域からの参加をえることができたか。	29	31	1	0	3.5	B
5	・高等学校における通級指導のサポートを進める。 ・教育相談(来校、訪問、研修会講師)や、関係機関との連携は従来通り行う。	・通級に関する高等学校の校内研修や、小中学校担当者も交えた合同研修会、丹波市の通級指導連絡会に参画した。 ・教育相談件数は年々増加傾向にあり、今年度も増加した。 ・各種協議会や会議に参画した。	・高等学校や関係機関との連携は進んでいると感じるか。	19	32	9	0	3.2	B
6	・校内研修(基礎講座)は、参加型の内容を企画することで教員間の学び合いを促す。	・基礎講座の講師は主に校内教員が務めた。一度は、高等学校の通級担当教員を講師に招いた。 ・「質問紙検査について」など講座のテーマによってはグループワークを設定することができた。	・基礎講座などが教員間で学び合う機会となったか。	28	30	3	0	3.4	B

【 次年度に向けての課題・展望 】

・次年度は特別支援教育講演会の形態を変え、校内研修(教材展を含む)を地域に公開する形で計画する。  
・高等学校との連携は年々少しずつだが進んでいる。高等学校を含む地域支援については、校内に支援部だよりなどで随時報告し、教員の理解を促す。

小学部

重点 目標	取組計画	今年度の取組	評価基準・判断指標	教員評価(1月)					判定
				4	3	2	1	平均	
1	・学習指導要領改訂に伴う教育課程の編成―道徳科や外国語活動、体験活動の導入、授業時数の増加等―(小) ・各授業の担当教員による指導計画や指導案の作成、評価等の打合せの充実(小)	・道徳科は、仲間づくりに焦点をあて児童に応じたゲームを行う体験活動を実践した。外国語活動は水上高校のALTにも協力いただき英語にふれる授業を実践した。また、外部人材の協力によりえんどうのさやむぎ体験や移動ふれあい動物園等が実施できた。 ・各教科領域や自立活動、道徳科等は毎学期2回打合せ会を行い指導計画や授業の改善に役立てた。	・道徳科(学期1時間)や英語体験活動(学期2時間)の授業、外部の人材等の協力による体験活動を実施する。 ・教科や領域、道徳科等の授業担当者の打合せを学期初めや終わりに実施して指導計画や授業改善に活かす。	28	28	0	0	3.5	A
2	・健康面で配慮が必要な児童の緊急時対応のケーススタディの実施(小) ・集団活動や遊び等を通しての人間関係の形成(小)	・校外行事(遠足や社会見学、修学旅行、校外学習)の前にはケーススタディを実施して、緊急時の対応について学部職員で確認した。 ・友だちを意識し集団活動へ楽しく参加できるように、授業には遊びを選択する機会や簡単なルールがあるゲームを取り入れた。	・校外行事前等に緊急時のケーススタディを実施する。 ・友だちを意識し協力して活動できるように、少人数集団による簡単なゲームや選択遊びの授業や学級活動を充実する。	34	21	1	0	3.6	A
3	・病態研修や訪問教育、初任研の研究授業等の学部研修会の開催(小) ・PT、ST指導や保育所等訪問支援事業の活用及び療育関係機関や医療機関との連携(小)	・病態研修では児童の実態について理解を深められた。訪問教育研修では訪問生や保護者も参加され、体の動かし方の支援や機器の取り扱い、保護者の思い等について学んだ。 ・PT、ST指導の機会を活用したり児童が放課後利用している市内外の療育機関を見学したりして指導力の向上に取り組んだ。	・病態研修や訪問教育研修、初任研の研究授業等の学部研修を実施する。 ・PT、ST指導や保育所等訪問支援事業で学ぶ機会、また療育や医療機関の実践に学ぶ機会を設けて指導力の向上を図る。	30	26	0	0	3.5	A
4	・月2回、小学部だよりの発行(小) ・交流学习(居住地校や近隣小学校との交流の推進(小)) ・小学部生活の事前体験を希望する幼児への体験入学の開催(小)	・学部だよりは計画通り発行して、学校生活の様子を情報発信してきた。 ・居住地校交流は11名が希望して相手校と連絡を取りながら実施した。学校間交流は市内3小学校と本校や相手校を会場に年4回実施した。 ・6月の体験入学には10名、10月は15名が参加した。3月に来年度入学転入児童の体験入学を実施する。近年は4歳児の参加が増えている。	・職員全員が学部だよりの作成を担当し学校生活の様子を情報発信する。 ・相手校の担当者との事前打合せを綿密に行い交流学习の充実を図る。 ・本校への転入学の参考とするために体験入学を学期に1回実施する。	32	23	0	0	3.6	A
6	・クラス担任制の取組の推進と学部やクラス会議等の児童を共通理解する機会の充実(小)	・クラスの児童は教師全員で支援や指導にあたるクラス担任制を推進するために、各種の個別計画の他に一日の流れに沿った支援手順表を作成して共通理解を図った。1学期中頃からは、担当する児童を交替していくローテーション指導をクラスの実態に応じて実践した。 ・3学期には児童の合理的配慮や支援について新年度へのスムーズな引継ぎができるように引継ぎ記録を作成する。	・クラス会や学部会で児童一人一人の合理的配慮や支援についての共通理解を図る。 ・クラスの実態に応じたローテーション指導を実践してクラス担任制の取組を推進する。 ・一人一人の引継ぎ記録を作成して次年度に役立てる。	28	26	1	1	3.5	B

【 次年度に向けての課題・展望 】

来年度の教育課程は、2020年度からの学習指導要領改訂に基づいた授業時数の設定、障害の重度・重複化、多様化や一人一人に応じた指導の充実を図るための時間割や学習形態の工夫、交流及び共同学習の推進等の改善ポイントを重視して編成する。来年度の在籍児童数は、本年度末の23名から31名と増加するので4クラス編成の予定である。医療的なケアを必要とする児童が2名入学し、在校生には引き続き健康面に特段の配慮が必要な児童がいるので、保健室や家庭、医療機関と連携しながら健康で安全な学校生活が送れるように日々の支援に取り組み、校外行事前には緊急時の対応訓練を実施する。訪問教育(対象児童2名)を学部全体の取組に位置付け、スクーリングの充実、訪問教育研修会の開催や複数教員が訪問教育に携わる機会の実施、訪問教育コーナーの校内掲示等に取り組む。小学部はクラス担任制を重視した取組を進めているので、一人一人の合理的配慮や支援の在り方について共通理解を図り、クラスの児童の情報を共有して支援ができる職員集団づくりに努める。

中学部

重点 目標	取組計画	今年度の取組	評価基準・判断指標	教員評価(1月)					判定
				4	3	2	1	平均	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携を図り、共通理解のもとで指導や支援にあたる(中)</li> <li>・個々の障害特性や実態に応じた学習グループや学習内容を工夫する(中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳でのやり取りや必要に応じて電話や面談等により、保護者との連携を図りながら指導支援にあたるように努めた。</li> <li>・これまでの踏襲にこだわることなく、校内作業実習や作業学習、グループ学習などにおいて実態に合わせた学習内容を工夫した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に不信感や不安感を抱かせることなく、連携を図ることができたか。</li> <li>・子どもたちの実態を考慮して学習内容を工夫することができたか。</li> </ul>	22	30	4	0	3.3	B
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自主性・社会性を伸ばし、家庭や春日学園との密な連携のもと生徒が安心して過ごせる環境づくりに努める(中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や春日学園と連携し、丁寧な情報交換を心掛けた。</li> <li>・一日や一週間など活動に見通しが持てるように個々に対応した手立てをし、落ち着いて生活ができる工夫を行った。</li> <li>・月1回の自活道德の授業では、テーマに沿ったゲームなどの題材を通して、他者への思いやりや社会性などを伸ばす授業を展開した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが不安を感じることなく、いきいきと過ごせるような環境づくりに努められたか。</li> </ul>	26	26	4	0	3.4	B
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部内でのOJTを積極的に行い、学部としての組織の力量を上げる(中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から風通しの良い学部の雰囲気づくりを心掛け、学部会等では意見を出し合い、生徒にとってより良い支援のあり方について話し合うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部会をはじめ、いろいろな場面で意見を出し合い、互いに高め合うことができたか。</li> </ul>	24	28	1	0	3.4	B
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の学部だよりの発行(中)</li> <li>・春日中学校との交流を年間3回行う(中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に学校生活の様子がわかるように、月1回の学部だよりを発行した。</li> <li>・春日中学校との交流会を年間3回行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部だよりを月1回発行することができたか。</li> <li>・春日中学校との交流会を年間3回行うことができたか。</li> </ul>	30	25	0	0	3.6	A
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織として教育活動にあたるように、クラス会議や学部会を更に充実させ共通理解を図る(中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス会議や学部会では、十分な話し合いのもとに、組織として同じ方向性で指導支援にあたるように努力した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス会議や学部会で共通理解を図り、学部内で同じ方向性で指導支援にあたれたか。</li> </ul>	24	29	1	0	3.4	B

【 次年度に向けての課題・展望 】

・生徒の実態や課題に応じた学習内容を工夫するとともに、自己選択や自己決定の機会を設けられるように努めたい。  
 ・引き続き、学部内でのOJTを積極的に行い、互いに高め合えるような雰囲気づくりに努める。  
 ・クラス会議や学部会での共通理解をもとにクラス担任制としての意識づけ図り、同じ方向性で指導支援にあたる。

高等部

重点 目標	取組計画	今年度の取組	評価基準・判断指標	教員評価(1月)					判 定
				4	3	2	1	平均	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業のねらい」を明確にし、生徒の主体性を育む(高)</li> <li>・個々の障害特性に合わせて、コース間の乗り入れを行う(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の始めに「ねらい」を提示説明し、見本をみせることで、自主的に活動できる場面が増えた。</li> <li>・授業の乗り入れを行うことで、仲間意識や意欲が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に活動できるよう、工夫した授業が展開できたか。</li> <li>・生徒の意向を聞き取り、可能な限り乗り入れを行うことができたか。</li> </ul>	23	30	1	0	3.4	B
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行方不明時における緊急時の迅速な校内支援体制(授業中止を含む)の配置(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の授業中止を実施することで、生徒の安全確保と、迅速な教員動員の支援体制を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の学校状況をみながら、迅速な協力体制を図ることができたか。</li> </ul>	23	32	0	0	3.4	B
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回程度、在籍生徒の緊急時ケーススタディの実施(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行対応をはじめ、ケース別にケーススタディを実施した。場面に応じた養護教諭の細やかな指導を参考にし、実践的な緊急時対応学習とした。</li> <li>・緊急時の対応ができる教員の幅が広がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の対応訓練に参加し、支援体制を広げることができたか。</li> </ul>	27	27	1	0	3.5	B
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間6回、学部たよりの発行(高)</li> <li>・氷上高校との交流及び共同学習を年間2回実施(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部たよりの発行については、保護者への感謝の機会の一つとし、日頃の様子をはじめ、行事や教科学習の様子を伝えている。</li> <li>・氷上高校との交流については、高等部2年生が調理実習を2回、生活コース社会Bグループが農業体験を2回実施した。</li> <li>・共同学習については、福祉の内容を対象とした教科学習を、3名通年で学習している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部たよりを通して、高等部の様子を伝えることができたか。</li> <li>・交流活動を通して、</li> <li>・共同学習や交流を通して、福祉の知識向上や花を育てる楽しさを味わうことができたか。</li> </ul>	34	21	0	0	3.6	A
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験入学、入学者選考の内容の見直し(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験入学に向け、1学期間学部会や学部長会議等で、検討・報告した。夏季休業中の実施は、来年度入学予定者の実態把握が丁寧に行えた。また、校内体験入学では、中学部での支援方法を共有することができた。</li> <li>・入学者選考については、実態把握を中心とした選考に変更し、2学期以降検討・実施予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外体験入学は8月28日に実施予定、校内体験10月24日に実施予定であったことができたか。</li> <li>・入学者選考について、今年度より選考内容を実態把握を中心に検討、変更予定としたが、できているか。</li> </ul>	32	22	0	0	3.6	A

【 次年度に向けての課題・展望 】

- ・来年度の緊急時のケーススタディについては、支援体制が新たになるため訓練を継続したい。
- ・一層の生徒に関する情報や課題等が共有できるよう、学年主任会を設け支援にあたりたい。
- ・体験入学、入学者選考については、入学相談期間を設けるなど中高の連携を意識した取り組みを展開したい。

#### 4 学校関係者評価

- 喜んで学校に通っているので安心している。  
連絡帳やHP・ブログ、通信等による情報ありがたい。さらに充実をお願いしたい。
- 電車通学の生徒について  
以前、他校生徒から駅等でいやがらせがあったように聞いている。  
必要な指導をお願いしたい。→ 列車マナー指導等に取り組んでいる。
- 今後も入所による転入の可能性あり。対応をお願いしたい。
- 卒業後、金銭管理がルーズになりやすい。  
年金、給料等について自立に向けた指導が必要。
- 全体的にきめ細かい対応ができていているように思う。(女性が多いからか)
- 授業公開は各学部の連携のためにも有効な研修となる。
- 指導について、理論に基づいているとはいえ一つの方法にこだわるのはよくない。  
たとえば、視覚支援へのこだわり等。いろいろなやり方がある。
- 相談件数の増加について  
担当する児童生徒の細かい部分に目がいくようになってきて、相談を要するようになってきている面もあるのではないか。
- 子どもは毎日楽しく学校に行っている。感謝している。
- PTA活動を1年間経験した。  
仕事内容がわかってきたところで任期が終わる。  
新役員との引継ぎで、PTA活動内容が十分に見えていないと感じた。  
役員の任期や連携等が課題と考えている。
- スマホ、タブレットを利用している生徒の保護者に、使用規定のようなものが必要と考える。
- アンケートの傾向として、学年があがるにつれ評価が厳しくなっているが、分析等しているか。  
→ 地域の中学校から高等部に進学した生徒の保護者等、進路の話においてズレが生じることがある。  
考え方の違い等で、学校と保護者との間で調整が難しい場合がある。
- いきいき活動等で地域として楽しくかかわらせてもらっている。  
地域の事業にも参加してほしいが、日曜の実施になることが多く難しいか。
- 春日学園に入所＝氷上特別支援学校 ではなくなっている。  
施設として努力して取り組んでいる。  
虐待に関連して、措置による入所依頼が殺到している。情報提供する。
- 学校卒業後の日中活動や仲間作りに関連して、在学中に指導をお願いしたい。
- 学校の組織として女性、若年層が活躍。  
それぞれの部署でメリハリのある形で取り組んでいる。
- 共生の時代といわれるが、一般的には定着していないと感じる。  
地域との交流、コミュニティスクール等、検討の必要。  
学校から地域に働きかけていくことがさらに必要。
- 地域支援に関して、担当者がかかわってもうまく引き継いでいけるような取組が必要。

平成30年度学校評議員会で出された意見等  
(第1回 6月12日、第2回 2月26日)

平成30年度 兵庫県立氷上特別支援学校 学校評価保護者アンケート結果 (下段:平成29年度)

平成31年1月11日 現在 回答総数 74

4…そう思う 3…どちらかといえばそう思う 2…どちらかといえばそう思わない 1…そう思わない

質問項目	小学部					中学部					高等部					全体				
	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均	4	3	2	1	平均
1 学校の雰囲気がよく、児童生徒は生き生きとしている。	12	4			3.8	12	4			3.8	27	15	2		3.6	49	23	2		3.6
	11	3			3.8	11	5		1	3.5	18	10	2	1	3.5	40	18	2	1	3.6
2 個々の児童生徒に適した学習内容で指導が行われている。	11	4		1	3.6	10	6			3.6	19	22	2	1	3.3	40	30	2	2	3.5
	8	6			3.6	10	6	1		3.5	13	17	1		3.4	30	29	2		3.5
3 児童生徒の卒業後の自立に向けた指導が効果的に行われている。	7	7			3.5	6	10			3.4	13	25	4	1	3.2	26	40	4	1	3.3
	3	11			3.2	7	9	1		3.4	12	17	1		3.4	21	37	2		3.3
4 児童生徒の意欲・関心を引き出すような教材・教具や指導方法が工夫されている。	11	5			3.7	8	8			3.5	17	24	2	1	3.3	36	35	2	1	3.4
	7	7			3.5	8	8	1		3.4	9	20	1		3.3	24	34	2		3.4
5 自立活動の指導は、児童生徒の実態に合わせ、自立に向けた力を育むよう工夫されている。	10	6			3.6	8	8			3.5	18	24	2		3.4	36	36	2		3.5
	6	8			3.4	9	7	1		3.5	14	14	3		3.4	28	29	4		3.4
6 校外学習、体験チャレンジ活動など、多くの体験的活動が適切に行われている。	13	2	1		3.8	7	8	1		3.4	26	15	2	1	3.5	46	25	2	1	3.6
	12	2			3.9	9	8			3.5	17	13	1		3.5	37	23	1		3.6
7 作業活動や現場実習は自立や就労に向けて役に立っている。	5	9			3.4	8	7	1		3.4	26	16	1	1	3.5	39	30	2	1	3.5
	8	6			3.6	9	7	1		3.5	19	9	3		3.5	35	22	4		3.5
8 学習発表会や運動会、マラソン大会等の行事は、児童生徒の学習の成果が表れる内容となっている。	11	5			3.7	10	6			3.6	21	18	4	1	3.3	40	29	4	1	3.5
	9	5			3.6	9	8			3.5	11	18	2		3.3	28	31	2		3.4
9 他の学校や地域との交流が教育効果を上げている。	9	5			3.6	6	9	1		3.3	10	27	5	2	3.0	25	39	6	2	3.2
	6	8			3.4	4	10	3		3.1	6	20	5		3.0	15	38	8		3.1
10 児童生徒の健康管理や健康の保持増進が積極的に進められている。	8	7			3.5	7	8	1		3.4	19	23	2		3.4	34	36	3		3.4
	9	5			3.6	8	8	1		3.4	7	22	1	1	3.1	23	35	2	1	3.3
11 事故防止やいじめ防止など児童生徒が安全・安心な学校づくりが進められている。	9	5	1		3.5	7	8	1		3.4	20	23	1		3.4	36	36	1		3.5
	7	7			3.5	7	9			3.4	12	17	2		3.3	25	33	2		3.4
12 ホームページ、学校通信「どんぐり」、学部通信などで子どもの様子や学校の教育活動がわかりやすい。	8	8			3.5	9	7			3.6	28	15			3.7	45	28			3.6
	10	4			3.7	9	8			3.5	19	11	1		3.6	37	23	1		3.6
13 通知表は、児童生徒の様子や達成度がわかりやすく書かれている。	9	5	1		3.5	10	6			3.6	31	13			3.7	50	22	1		3.7
	14				4.0	12	5			3.7	20	10	1		3.6	45	15	1		3.7
14 個別懇談会や保護者懇談会は適切に行われている。	10	6			3.6	10	6			3.6	29	12	3		3.6	47	24	3		3.6
	13	1			3.9	13	3		1	3.6	14	15	2		3.4	39	19	2	1	3.6
15 進路や福祉制度等に関する情報提供が適切に行われている。	6	9			3.4	5	10	1		3.3	17	21	5	1	3.2	26	40	6	1	3.2
	4	10			3.3	7	8	2		3.3	8	19	4		3.1	18	37	6		3.2
16 PTA活動を通じて学校と保護者や保護者どうしの連携が図られている。	6	5	3		3.2	5	8	3		3.1	8	26	8	1	3.0	19	39	12	1	3.1
	4	9	1		3.2	3	9	5		2.9	5	19	6	1	2.9	12	36	12	1	3.0
17 緊急時を含めて、学校と保護者の連絡体制はしっかりとできている。	9	6			3.6	7	8			3.5	22	18	4		3.4	38	30	4		3.5
	9	5			3.6	12	5			3.7	12	16	3		3.3	33	26	3		3.5
18 学校とは相談しやすく、コミュニケーションがとりやすい。	10	6			3.6	10	6			3.6	29	13	1	1	3.6	38	25	1		3.6
	9	5			3.6	13	4			3.8	14	16	1		3.4	32	25	1		3.5
19 教職員は、特別支援教育の専門性を高めようと努めている。	10	6			3.6	9	7			3.6	18	22	3	1	3.3	38	30	3	1	3.5
	9	5			3.6	10	7			3.6	15	13	2	1	3.4	32	26	2	1	3.5
20 本校職員の待遇や対応は適切である。	12	4			3.8	11	5			3.7	22	21	1		3.5	45	30	1		3.6
	11	3			3.8	11	6			3.6	16	13	1	1	3.4	38	22	1	1	3.6

自由記述

【小学部】・いつも本当によくして下さっていて、子供が学校へ行きたくない！！という日がありません。ありがとうございます。  
 ・小中高の交流が校内でできる機会が多く、小さい子は大きなお兄さんやお姉さんに助けってもらったり姿をまねて成長させてもらえるし、大きな子は小さい子をいたわる優しさを養うなど、普段からとてもいい経験をさせてもらえる環境だと思っています。それは、運動会や発表会の時など、身をもって感じました。数年後は、こんなことができるようになるのかなあ…と想像もしたりして、遠くない将来に希望が持ると家族内でも話しています。  
 ・他の学校や地域との交流をもっとふやしてほしい。校外学習や体験チャレンジの活動をもっとふやしてほしい。体験が経験に経験が自分の力になると思います。後は、個人にあった学習指導を追求してほしいです。  
 ・校舎内が冬場は特に寒い。鼻水をたらしたりカゼをひきやすい様に思います。  
 ・子供の個性に丁寧に向き合ってください感謝しています。

【中学部】・いつも大変お世話になりありがとうございます。毎日喜んで登校させていただいています！  
 ・いつも子供たちが生き生きと活動していると思います。先生方が思いやりがあり優しいのでとてもありがたいです。  
 ・いつもありがとうございます。毎日、ていねいに連絡帳を書いていただき、様子がよく伝わってきます。先生方の負担になりすぎないように配慮いただけたらと思います。HPもこまめに更新いただきありがたい限りですが、これまた負担になりすぎないところで…子どもたちとじっくり向き合っているだけで十分ですので、情報発信は無理のないところで…今後ともよろしくお願いします。  
 ・いつもよくしていただき感謝しています。本人も楽しそうにできて安心しています。ありがとうございます。

【高等部】・高校生になってから色々な事に前向きになり、集中力もついてきている様に思います。教育内容であったり指導していただいている先生の手厚い支援のおかげだと思っています。子供たちが成長していくのに大切な内容であり、身につけていると思っています。又、説明会や研修会等、私達、親も勉強させていただけるのでうれしく思います。

平成30年度 兵庫県立氷上特別支援学校 学校評価（教員評価）

回答数：62 / 62

評価	4：目標は十分達成されている	3：目標は概ね達成されている
	2：目標はあまり達成できていない	1：目標はまったくできていない
判定	A:良好(評価平均3.5以上)	B:概ね良好だが一層の取り組みが必要(評価平均3.0以上)
	C:取組に工夫が必要(評価平均2.0以上)	D:取組の見直しが必要(評価平均2.0未満)

	取組計画	評価					判定
		4	3	2	1	平均	
総務部	各学部防災教育の事前指導をまとめることにより、減災への対応を共通理解する一助にする。	21 34%	38 62%	2 3%	0 0%	3.31	B
	今年度は創立40周年を迎えたため、次年度の記念式典の準備を検討する。	23 38%	36 59%	2 3%	0 0%	3.34	B
教務部	「個別の教材の指導計画」を通して指導や支援の方法をクラスや学部等で共有させるよう作成を依頼	17 28%	38 62%	5 8%	1 2%	3.16	B
	「教科・領域の年間指導計画」を活用し、指導内容やねらいを確認できるよう作成と保管を依頼	17 28%	43 70%	0 0%	1 2%	3.25	B
	校内研修の実施（情報教育、人権教育、テーマ研究）	28 46%	31 51%	1 2%	1 2%	3.41	B
	校内授業公開期間の継続	35 57%	26 43%	0 0%	0 0%	3.57	A
	多様化事業の活用	23 38%	32 52%	6 10%	0 0%	3.28	B
生徒指導部	HPによる情報提供	29 48%	31 51%	1 2%	0 0%	3.46	B
	介護等体験、教育実習生の受け入れ	21 34%	34 56%	6 10%	0 0%	3.25	B
	交通安全教育の実施。（交通安全教室、通学指導、列車マナー指導）	21 34%	34 56%	6 10%	0 0%	3.25	B
	外部講師を招いての生徒向け情報モラル授業の実施。	21 34%	36 59%	3 5%	1 2%	3.26	B
進路指導部	校内研修の実施。（いじめ未然防止研修）	39 64%	21 34%	1 2%	0 0%	3.62	A
	部活動の大会参加及び作品展への出品。	24 41%	33 57%	1 2%	0 0%	3.40	B
	運動会・学習発表会の実施と地域・関係機関への案内。	30 51%	29 49%	0 0%	0 0%	3.51	A
	卒業後を見据えた指導。高等部3年生にあつては、進路先へのスムーズな引継ぎを行うため、個別の移行支援計画を作成する。	21 36%	38 64%	0 0%	0 0%	3.36	B
	生徒への補償について。実習中を含めた、校外学習に関する賠償保険の検討と、全生徒に対して加入を押し進める。	18 31%	38 64%	3 5%	0 0%	3.25	B
	校内実習の充実。生徒増に伴い、進路指導部のみで運営するのではなく、学部内職員に向け、実習の内容について学ぶ機会を持ちたい。	23 40%	33 58%	1 2%	0 0%	3.39	B
保健部	校内研修の実施。昨年度は近隣の関係約15団体を招聘し、事業PRを保護者に向けても案内した。今年度も継続するか検討する。	25 43%	31 53%	2 3%	0 0%	3.40	B
	現場実習、職業における授業内容の検討を継続して行う。また業務改善に関する見直しも適宜行う。	38 62%	22 36%	1 2%	0 0%	3.61	A
	アレルギーのある生徒に対しての共通理解及び、事故を未然に防ぐ対応を考えるアレルギー関係者会を実施する。（不定期）	33 54%	27 44%	1 2%	0 0%	3.52	A
	安全点検やヒヤリハット報告をすることで、学校施設設備の保守・点検管理を行う。	21 34%	37 61%	3 5%	0 0%	3.30	B
	不登校及び、登校しにくい児童生徒を支援するためのカウンセリングマインド研修を実施する。	34 56%	25 41%	2 3%	0 0%	3.52	A
教育支援部	各種健康診断の結果を保護者に伝え、早期の受診を促す。	27 45%	31 52%	2 3%	0 0%	3.42	B
	保健だより、食育だよりを月に1回程度配布し、健康安全に関する啓発を行う。	23 38%	32 53%	5 8%	0 0%	3.30	B
	家庭、地域と連携した学校保健活動を推進するため、学校保健安全委員会の開催を増やす。（校内1回、拡大2回）	26 43%	31 51%	4 7%	0 0%	3.36	B
	「個別の教育支援計画」や「自立活動の個別の指導計画」を学級担任で読み合わせることで、支援に関する共通理解を図る。	29 48%	31 51%	1 2%	0 0%	3.46	B
	校内研修（基礎講座）は希望アンケートをもとに内容の充実を図る。	19 32%	32 53%	9 15%	0 0%	3.17	B
小学部	教材展や特別支援教育講演会を実施する。	28 46%	30 49%	3 5%	0 0%	3.41	B
	教材展や特別支援教育講演会を地域の小中学校等に公開する。	28 50%	28 50%	0 0%	0 0%	3.50	A
	高等学校における通級指導のサポートを進める。	34 61%	21 38%	1 2%	0 0%	3.59	A
	教育相談（来校、訪問、研修会講師）や、関係機関との連携は従来通り行う。	30 54%	26 46%	0 0%	0 0%	3.54	A
	学習指導要領改訂に伴う教育課程の編成一道徳科や外国語活動、体験活動の導入、授業時数の増加等。	32 58%	23 42%	0 0%	0 0%	3.58	A
	健康面で配慮が必要な児童の緊急時対応のケーススタディの実施。	28 50%	26 46%	1 2%	1 2%	3.45	B
中学部	集団活動や遊び等を通しての人間関係の形成。	22 39%	30 54%	4 7%	0 0%	3.32	B
	病態研修や訪問教育、初任研の研究授業等の学部研修会の開催。	26 46%	26 46%	4 7%	0 0%	3.39	B
	P T、S T指導や保育所等訪問支援事業の活用及び療育関係機関や医療機関との連携。	24 45%	28 53%	1 2%	0 0%	3.43	B
	月2回、小学部だよりの発行。	30 55%	25 45%	0 0%	0 0%	3.55	A
	交流学習（居住地校や近隣小学校との交流の推進）	24 44%	29 54%	1 2%	0 0%	3.43	B
高等部	春日中学校との交流を年間3回行う。	23 43%	30 56%	1 2%	0 0%	3.41	B
	組織として教育活動にあたるように、クラス会議や学部会を更に充実させ共通理解を図る。	23 42%	32 58%	0 0%	0 0%	3.42	B
	学年1回程度、在籍生徒の緊急時ケーススタディの実施。	27 49%	27 49%	1 2%	0 0%	3.47	B
	年間6回、学部だよりの発行。	34 62%	21 38%	0 0%	0 0%	3.62	A
	氷上高校との交流及び共同学習を年間2回実施。	32 59%	22 41%	0 0%	0 0%	3.59	A